

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) ジョブクラス編

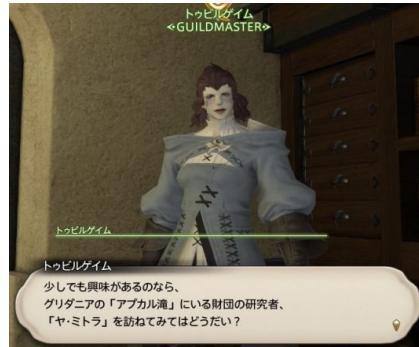


召喚士クエスト

業火の召喚獣

トゥビルゲイム： やあ、◇◇◇。よく来てくれたね、お前さんに話があるのさ。

「聖コイナク財団」という学術研究組織からなんだが、◇◇◇宛に、依頼が届いていてね。
彼らは、現在進めている特別な研究の協力者として、蛮神「イフリート」を討伐した経験を持つ巴術士を、迎えたがっているらしいんだ。
お前さんが「蛮神討伐」という、稀有な経験を持つ巴術士であることを、どこからか聞きつけたんだろうね……。
少しでも興味があるのなら、グリダニアの「アプカル滝」にいる財団の研究者、「ヤ・ミトラ」を訪ねてみてはどうだい？



ヤ・ミトラ： あなたが◇◇◇ ◆◆◆？ はじめまして、私がヤ・ミトラよ。

私は「聖コイナク財団」の一員。財団っていうのは、同盟加盟国とシャーレアンの者たちが、
古代アラグ文明の知識を求めて設立した研究組織よ。
最近、私たちはモードゥナ地方で発掘された遺跡で、ひとつの重要な発見をしたの。

古代アラグ帝国で「召喚士」と呼ばれていた魔道士たちが、蛮神の力を奪い、使い魔として使役していたという、驚くべき記録をね。
もし、この召喚士の術を復活することができれば、今の戦乱の時代を収める力になるかもしれない……

私たちはそう考えたのだけど、ひとつ問題があったわ。

記録には、こうも記されていた。疑似蛮神「召喚獣」を使役するには、蛮神を倒し、そのエーテルを身に浴びる必要がある、と。
つまり「召喚士」になる資格を持つのは、蛮神討伐の経験がある者のみ、ということよ……。

あなたを呼んだ意味、わかってくれたかしら？

もし私の研究に協力してくれるなら、南ザナランの「ピエルゴズ・ストライク」の西まで来て。

召喚獣を生み出す儀式「炎の荒行」を行うわ。



ヤ・ミトラ： ありがとう……来てくれると信じていたわ。それじゃ、さっそく「炎の荒行」を始めましょう。

記録によれば、古代の召喚士たちは、召喚したい召喚獣と同じ属性の力が強い土地で荒行を行い、
己のエーテルを、その属性に近づける術を学んだらしいわ。

サゴリー砂漠は、火の属性がとても強い。焔神「イフリート」をもとにした召喚獣を創りだすのに、この地は、もっとも適しているのよ。

さあ、これを手に取ってちょうだい。これは「ソウルクリスタル」…… 古の召喚士たちの記憶が封じられた結晶よ。

そして、己のエーテルが炎に変わるよう瞑想して。そうすれば生まれるはずよ……炎を抱く召喚獣が！

ただし、生まれたばかりの召喚獣は不安定な存在。だから力尽くで調伏し、あなたを主と認めさせるの。

それが「召喚士」の秘術よ！

顕学のヤ・ミトラ : ……近くにいるだけで、すさまじい熱気ね。でも、あなたと一緒になら、きっと大丈夫！
顕学のヤ・ミトラ : イフリート・エギが、ファイアスプライトを呼んだわ！ 囲まれないよう気を付けて、◇◆◇！
顕学のヤ・ミトラ : ◇◇◇、「紅蓮の楔」を壊して！ あの楔が、イフリート・エギの力を高めているわ！
顕学のヤ・ミトラ : よし、「紅蓮の楔」は消滅したわ！ 一気にたたみこむわよ、◇◆◇！

ヤ・ミトラ : すごい、すごいわ、◇◆◇！ 見事、炎の召喚獣を調伏してみせたわね！
これで「炎の荒行」は完了よ。グリダニアの「アブカル滝」に戻しましょう！

ヤ・ミトラ : ついにやったわね！ あなたは古の召喚獣を復活させたのよ！ いえ、これは現代における新たなる召喚獣の創造だわ！
あなたの得た召喚獣は「イフリート・エギ」……。「エギ」という言葉には、古代アラグ帝国の言葉で、
「純粋な」とか「本質の」とかいった意味があるの。
今回、あなたが創造した召喚獣は、イフ리트の炎の本質を具現化した存在。だから「イフリート・エギ」と呼ばれるのよ。
攻撃性に優れた「イフリート・エギ」は、あなたの冒険において、きっと役に立ってくれるはず。
……召喚獣「イフリート・エギ」をものにした今、あなたは「新生召喚士」を名乗るにふさわしい存在になった。
その「ソウルクリスタル」の、真の持ち主になったのよ！
でもまだまだ、召喚士としては駆けだしよ。この戦乱の時代を制するには、より大きな力が必要になる。
次は、土の召喚獣の復活を目指しましょう。
あなたには既に、蛮神「タイタン」を討伐した経験がある。すぐにでも「土の荒行」をしたいところだけど……
まずは、十分に身体を休めたほうがいいんじゃない？
きちんと身体を休め、そして召喚士としての経験を積み、次の荒行に立ち向かう準備ができれば、また私を訪ねて。



大地の召喚獣

ヤ・ミトラ： タイタン討伐を成した◇◇◇なら、次なる召喚獣を呼ぶ荒行に、挑むことができるわ。
さっそく「土の荒行」を始めましょう。今のあなたなら、召喚獣「タイタン・エギ」を創りだし、従えることができるはずよ！
目的地は、北部森林「アルダースプリングス」南西。かの地は第七霊災時の衝撃で古代の地層が露出し、
土属性の力が活性化しているの。
「土の荒行」には、最適な条件が揃っているわ。行きましょう、◇◇◇。

ヤ・ミトラ： これからやってもらう「土の荒行」は、以前の「火の荒行」と本質的には同じ儀式よ。
自分のエーテルを、この地で土に近づけるように瞑想する。そうすれば召喚獣「タイタン・エギ」が生まれるはずよ。
そして、現れた「タイタン・エギ」に、あなたの力を見せつけば……召喚獣を手にする！ さあ、やってみて！

顕学のヤ・ミトラ： まるで押し潰されるかのよう……なんて存在感なの。さすがは、タイタンのエーテルから生まれた召喚獣……！
タイタン・エギが土属性の魔物を呼び寄せたわ！
くっ……大地のエーテルが激しく乱れているわ……

ヤ・ミトラ： やったわね！



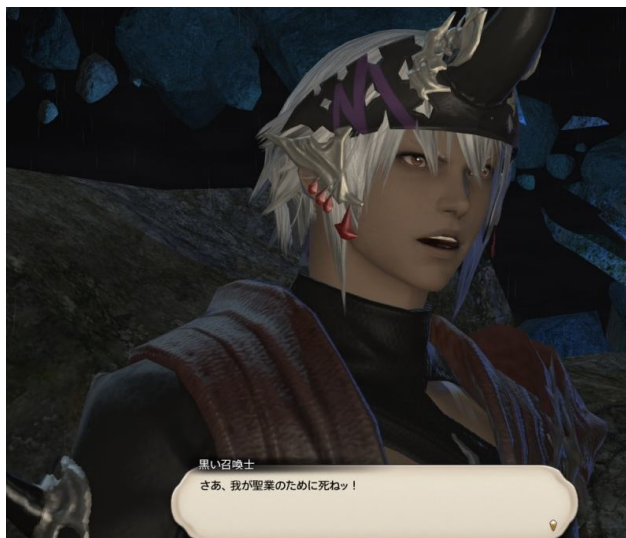
????： アラグの遺物を求めて来てみれば…… 思わぬ者らに遭遇したものだな。貴様ら、どこでその力を手にした？

ヤ・ミトラ： あなたこそ、何者なの？

????： 召喚魔法を手にしたのであれば、アレを持っているはずだ……。
ちょうどいい。貴様らが何者であろうと、殺して奪うのみ。

ヤ・ミトラ： なッ……！？ あの男も、召喚士だというの？

黒い召喚士： さあ、我が聖業のために死ねッ！
この俺と出会った、己の不幸を呪え！ その嘆きごと、地獄の業火で焼き尽くしてやろう！



顕学のヤ・ミトラ : あいつ、ただ者じゃない……！ 気を付けて、◇◇◇！！
黒い召喚士 : ……少しはできるようだな。だが、この俺に勝てると思えるのは、増長というものだ！
顕学のヤ・ミトラ : ◇◇◇、注意して！ 黒い召喚士の雰囲気が変わったわ！！
黒い召喚士 : チッ……やるな！
黒い召喚士 : しかし、この攻撃は受けとめられまい！
黒い召喚士 : 創世の火を胸に抱く灼熱の獣よ！ 灰塵に帰せ、地獄の火炎ッ！！

黒い召喚士 : 何ッ！？

ヤ・ミトラ : 隙ありッ！

黒い召喚士 : チッ…… イレギュラーが多すぎるか……。ここは退かせてもらおう！

ヤ・ミトラ : 消えた……？ いったい、何者だというの？
……とにかく「アプカル滝」に戻しましょう。この場でこうしていても、何もわからないわ。

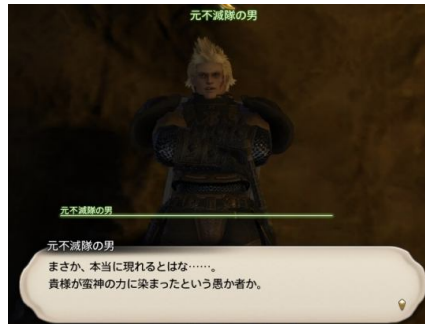
ヤ・ミトラ : 驚いた、と言うほかないわね。私たち以外に、召喚魔法を復活させた者がいたなんて。
あの男が襲ってきたのは、私たちの持つ「何か」を求めてのことみたいだったけど。……彼の言動には、謎が多いわ。
ともかく「タイタン・エギ」を手に入れられたことを、今は喜んでおきましょう。
「タイタン・エギ」は、守りに優れた召喚獣よ。きちんと使いこなせるよう、腕を磨いておいて。
襲撃には十分に気を払いながら、ね。
私は「聖コイナク財団」の伝手を使って、あの男の正体を探ってみる。……少し時間をちょうだい。



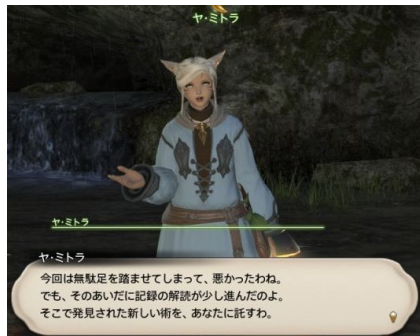
黒き召喚士の影

ヤ・ミトラ： 例の黒い召喚士の素性について、「聖コイナク財団」を通じて調べただけど…… 該当者とおぼしき人物がいたわ。彼は「イフリート・エギ」を使役していた。だから、過去に行われたイフリート討伐戦からの生還者を洗ってみたの……。生還者のうち、現在、行方の解らない者は8名。それを種族、性別などで絞りこんだ結果、ひとりの容疑者が浮上したわ。元不滅隊の隊士で「**トリスタン**」という名の男よ。でも、彼がどうやって召喚魔法を修得し、何ゆえ私たちを襲ったのか……それは謎のままなの。……彼が召喚魔法を悪用するなら、放置することはできない。召喚魔法は、正しき目的のために使うべきもの、いたずらに人を傷つけるための魔法じゃないもの。彼を見極めて、最悪の場合、力ずくでも止める必要があるわ。悪用を放置すれば、召喚魔法は禁忌とされて、その使用を禁じられてしまうかもしれないから……。調査の結果、トリスタンの不滅隊時代の戦友が、「**リトルアラミゴ**」にいることがわかってるわ。その「元不滅隊の男」から、彼の話聞きだしてみて。

元不滅隊の男： まさか、本当に現れるとはな……。貴様が蜜神の力に染まったという愚か者か。さっそく、このことをトリスタンに伝えなくては。おい、お前たち！ この場は任せるぞ！！



ヤ・ミトラ： そんなことが……！ まさか、トリスタンに先回りされていたなんて。きつと◇◇◇のことを、蜜神に魅入られた「テンバード（信徒）」だとも、吹きこんでおいたに違いないわ。あのトリスタンという男、かなり頭が切れるみたいね。けっして、狂っているわけではない……。彼は、はっきりとした目的を持っている。その上で私たちに敵対し、召喚魔法を利用しているのよ。……それがわかったただけでも、収穫と思えましょう。それにしても、さすがは◇◇◇ね。とっさの襲撃も、難なく切り抜けてみせるなんて。今回は無駄足を踏ませてしまって、悪かったわね。でも、そのあいだに記録の解読が少し進んだのよ。そこで発見された新しい術を、あなたに託すわ。あなたのように召喚獣を意のままに操れるのなら、この古の記録に記された術も使いこなせるはずだわ。気持ちを切り替えて、また頑張っていきましょう。



アラグの装束

ヤ・ミトラ： トリスタン……彼の目的はいまだに不明よ。そのやり口は、きわめて奸智に長け、手段を選ばない卑劣さを持つわ。今のところ、私たちは後手を踏んでいる。このまま正攻法で彼の影を追っても、それを捕らえることはできないと思うの。だけど……私たちは彼が求める「何か」を持っている。彼とは、いつか必ずぶつかる運命にあるわ。ならば、その時に備えましょう。いつか来る決着の日のため、新しい力を身につけるの。幸いなことに、そのアデはあるわ。「聖コイナク財団」が調査しているモードウナの遺跡で、召喚士の「装束」が発見されたという情報があるの。古代アラグ帝国で、召喚士のために作られた「装束」……。それに秘められた力には、期待できると思うわ。調査を指揮している「ラムブルース」は私の知り合いよ。モードウナの「**聖コイナク財団の調査地**」に行って、彼に「装束」を譲ってくれるよう、頼んでみましょう。

ラムブルース： やあ、待っていたよ、ヤ・ミトラ。そっちが、噂の新生「召喚士」かな？

ヤ・ミトラ： ええ、そのとおりよ。ラムブルース、以前、モードウナの調査によって、召喚士の「装束」が見つかったというのは間違いないの？

ラムブルース： もちろんだとも。まさに歴史的発見と言えるよ！

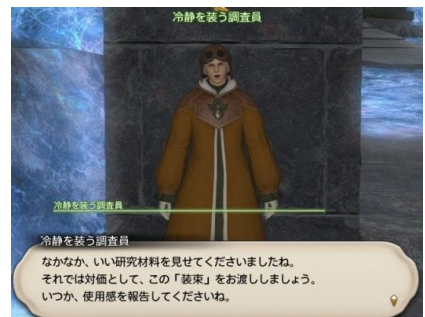
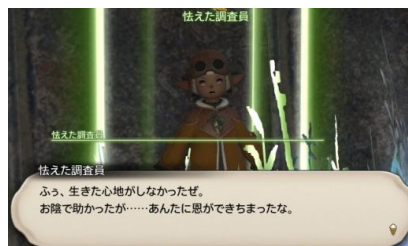
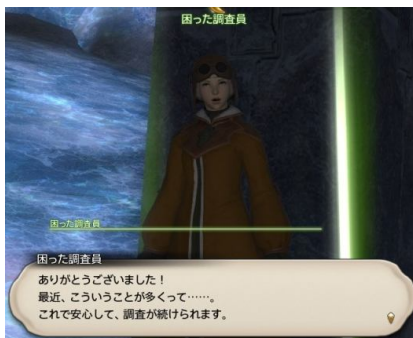
ヤ・ミトラ： そう……ねえ、ラムブルース。こっちの事情については、以前に話したわよね？ その「装束」、私たちに譲ってくれない？

ラムブルース： ……ふむ、召喚士のために作られた「装束」を、召喚士に使わせるということに、学術的な魅力は感じる。しかし、発見した「装束」は、我々の汗と涙の結晶。少しは苦勞をわかちあってもらわないと、譲れないね。……このモードウナのあちこちにある「発掘地点」では、アラグが生み出した異形の魔物「ミラーナイト」が出現し、「調査員」たちの脅威となっている。3ヶ所ある発掘地点の「調査員」から話を聞いて、彼らが手を焼いている「ミラーナイト」を退治してくれ。そうすれば、それぞれ「装束」を譲ってくれるだろう。魔物をすべて片付けたら、ここに戻ってきてくれ。ここで見つけた「装束」を、礼として君に譲ろう。

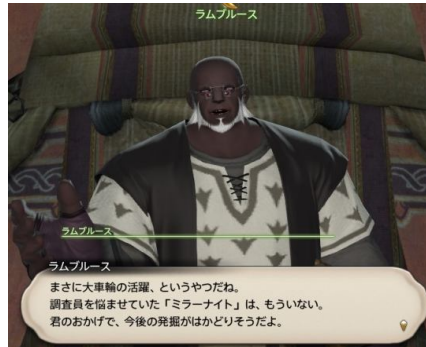
困った調査員： あ、あそこに「ミラーナイト」が潜んでいるんです。退治してください！
ありがとうございました！ 最近、こういうことが多くって……。これで安心して、調査が続けられます。そういえば、召喚士の「装束」を探しておられるとか。だったら、この「装束」を持って行ってください。

怯えた調査員： ラムブルースの旦那が言っていた冒険者だな？ なぁ、あいつを始末してくれよっ！
ふう、生きた心地がしなかったぜ。お陰で助かったが……あんたに恩ができたな。
この召喚士の「装束」、持って行ってくれ。こいつが必要だって、前にヤ・ミトラから聞いたよ。有効に活用してくれよな。

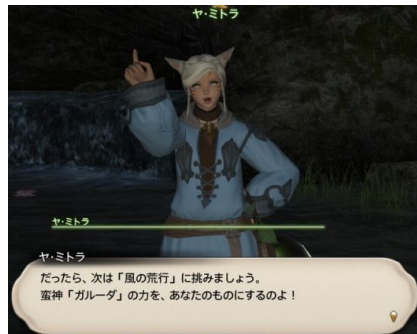
冷静を装う調査員： ふむ……アラグの合成獣が現われましてね。どうしたものかと、思案していたところなのです。
ふむ……実に興味深い。合成獣の戦いぶりを、間近で観察できるとは……。
なかなか、いい研究材料を見せてくださいましたね。それでは対価として、この「装束」をお渡ししましょう。
いつか、使用感を報告してくださいね。



ラムブルース：戻ってきたね、◆◆◆！ ふむ、かなりいい仕事をしてくれたようだ。
まさに大車輪の活躍、というやつだね。調査員を悩ませていた「ミラーナイト」は、もういない。
君のおかげで、今後の発掘がはかどりそうだよ。
約束どおり、私が持っている「装束」を君に譲ろう。受け取ってくれ、◆◆◆。
そうそう、ヤ・ミトラは先に帰ったよ。いつもの「アブカル滝」で、君の帰りを待つそうだ。



ヤ・ミトラ：なるほど、それが古代召喚士の「装束」なのね。残念ながら、胴衣は見つかっていないみたいだけど。
それにしても、これ…… トリスタンが着ていた「装束」と色以外はそっくりね。
装備品は同等。ならば勝敗を決めるのは、召喚士自身の力量よ……！
◇◇◇、あなたはすでに蛮神「ガルーダ」を討伐した経験があるようね。
だったら、次は「風の荒行」に挑みましょう。蛮神「ガルーダ」の力を、あなたのものにするのよ！
私は「風の荒行」に入るための場所を探しておくわ。しばらく身体を休めて、十分な準備ができれば、また私のところに来てくれる？



烈風の召喚獣

ヤ・ミトラ : 嵐神「ガルーダ」を討伐し、そのエーテルを身に受けたあなたなら、「風の荒行」に挑むことができるわ。
善は急げ、すぐに「風の荒行」を始めましょう。いつものように、風属性の力が強い土地を探しておいたわ。
外地ラノシアの「**二ム浮遊遺跡**」という土地に、強い風の属性によって、大地が浮遊している場所があるの。
「風の荒行」は、そこで行うわ。それじゃあ、現地で落ち合いましょう。

ヤ・ミトラ : では「風の荒行」を始めましょう。もう3回目だし、慣れてきたのではないかしら？
いつもの同じように、自分のエーテルをこの土地の強い属性に近づけるように瞑想して。
そうすれば、あなたのエーテルをもとにして、召喚獣「ガルーダ・エギ」が生まれいずるわ。
あとは、その「ガルーダ・エギ」を調伏すればいい……！

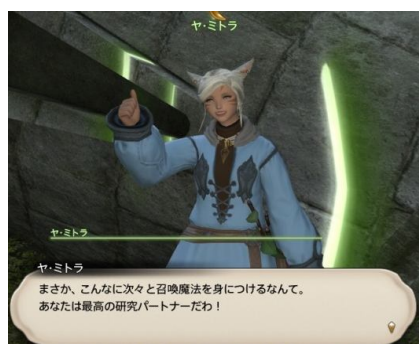
顕学のヤ・ミトラ : すごい風圧……！ ガルーダ・エギ……まさに小型の嵐神だわ。

顕学のヤ・ミトラ : ◇◇◇、ガルーダ・エギの羽根に気をつけて！

顕学のヤ・ミトラ : ぶ……分身したっ！？ ガルーダ・エギが、自らの分身を作り出したというの！？

顕学のヤ・ミトラ : さすがに手強い……。だけどもう少しよ、一気に仕留めてしましましょう！

ヤ・ミトラ : すばらしいわ、◇◇◇！ 見事に、召喚獣「ガルーダ・エギ」をものにしたわね！
まさか、こんなに次々と召喚魔法を身につけるなんて。あなたは最高の研究パートナーだわ！
さあ、「アブカル滝」に戻りましょう。まずはじっくりと、身体を休めないで。



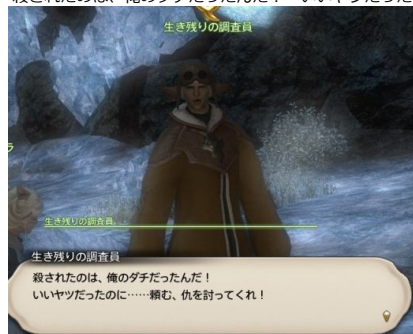
ヤ・ミトラ : この召喚獣「ガルーダ・エギ」で、あなたが手に入れた召喚獣は3体になるわ。
「イフリート・エギ」も「タイタン・エギ」も、そして「ガルーダ・エギ」も、みんな違った個性がある。
「ガルーダ・エギ」の得手は、魔法を使った遠距離攻撃。あの荒々しい嵐神の性質を、見事に体現しているわね。
性質の違う召喚獣を、適切に使い分けことができれば、いつか訪れる、トリスタンとの決戦において、
あなたが後れを取ることはないはずよ。
……私はしばらく、トリスタンの動向を探ってみる。あなたは「決戦のとき」がくるまで、英気を養っておいて。

邪道と正道

ヤ・ミトラ : ああ、来てくれたのね！ 待っていたわ、大変なことになったのよ！
「聖コイナク財団」の遺跡調査隊が、襲撃されたいの。犯人は黒衣の男……きっと、トリスタンの仕業だわ。
彼も焦っているのかもしれない。これだけの強行策に出るなんて……！
ともかく、生き残りの調査員に話を聞かなくては。モードウナの「聖コイナク財団の調査地」へ行きましょう。
襲われた状況と理由がわかれば、トリスタンの目的や行動が、予測できるかもしれないわ。

ヤ・ミトラ : さあ、彼の話聞いてみましょう。トリスタンを知る、手がかりになるかもしれない。

生き残りの調査員 : あ、ああ……そうだ、間違いない。敵はヤ・ミトラから聞いていた「黒い召喚士」だった。
ヤツは、俺たちが新たに遺跡から発掘した、召喚士のソウルクリスタルを奪っていったんだ。
抵抗した調査員は、みんな殺された……うう……。ソウルクリスタルを強奪した襲撃者は、
「唄う裂谷」のほうへ立ち去っていったよ。
殺されたのは、俺のダチだったんだ！ いいヤツだったのに……頼む、仇を討ってくれ！



ヤ・ミトラ : ソウルクリスタルを奪った……？ じゃあ、それがトリスタンの目的だったの？
つまり、◇◇◇が襲われたのも、ソウルクリスタルを持っていたから……！
トリスタンは、ソウルクリスタルを集めて、何をしようとしているのかしら？
結局は、本人に聞いてみただすしかないようね。◇◇◇、「唄う裂谷」に向かいましょう。トリスタンの後を追うのよ！

トリスタン : さあ、約束どおり、「ソウルクリスタル」を集めてきたぞ！

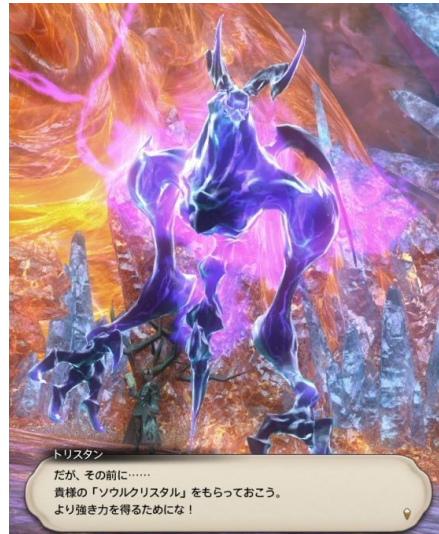
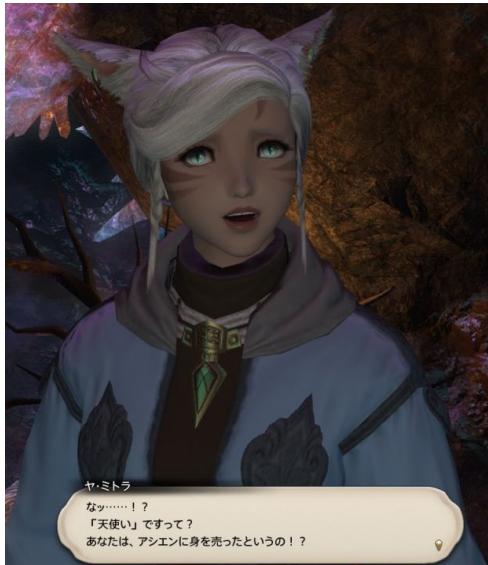
十二杯のアシエン : ふむ、たしかにアラグの召喚士たちが用いたソウルクリスタルのようだな……。
よからう……。この中に眠る、古の蛭神にまつわる記憶と、そのエーテルを絞りだし、貴様に与えよう。



トリスタン : ぐおおおツ！
ハア、ハア、ハア……。クククク……。ノリノリ！
来たか、偽りの召喚士よ。だが、一歩遅かったようだね。
天使い殿の協力で、俺は今、アラグの召喚士たちが使役した、古の蛭神ベリアスの力を得た。

ヤ・ミトラ : なッ……！？ 「天使い」ですって？ あなたは、アシエンに身を売ったというの！？

トリスタン : たしかに感じる……古の蛮神、その強大な力を！ 素晴らしいぞ、この力は……！
この力さえあれば、お前たちはおろか、蛮神を生み続ける蛮族どもを根絶やしにできる！ これぞ、聖戦に勝利する力だ！
猛々しき豪炎の魔神よ！ 我が絶望と悲憤を苗床に甦れ、ベリアス！
この力を以て、蛮族せん滅の聖業を開始する！
だが、その前に…… 貴様の「ソウルクリスタル」をもらっておこう。より強き力を得るためにな！



黒炎のトリスタン : さあ、刮目せよ！ これぞ、我がベリアス・エギの力だッ！！
顕学のヤ・ミトラ : 凄まじいまでの力を感じる……！ でも、負けられないわ……勝たなきゃいけないのよ！
黒炎のトリスタン : ……まだだ、まだ足りんッ！ この俺にもっと力を与えてくれ！ ベリアスッ！！
黒炎のトリスタン : おおおおおッ！！ わかる……くるぞ、闇の力が今、俺の中にくるッ！！
黒炎のトリスタン : 闇のエーテルの力が……俺の中に満ちてゆく……！
顕学のヤ・ミトラ : な……なんてことなの！ まさか……ベリアスの闇の力を吸収したというの！？
黒炎のトリスタン : フッ……フノノッ！！ 素晴らしい、素晴らしいぞ、このカッ！！

トリスタン : クソ……俺は古の蛮神の力を得たはず……。こんな、はずでは……。
この力で、俺は……蛮族どもを根絶やしにするんだ！ そして、兄貴をテンバードにした憎き蛮神を……！

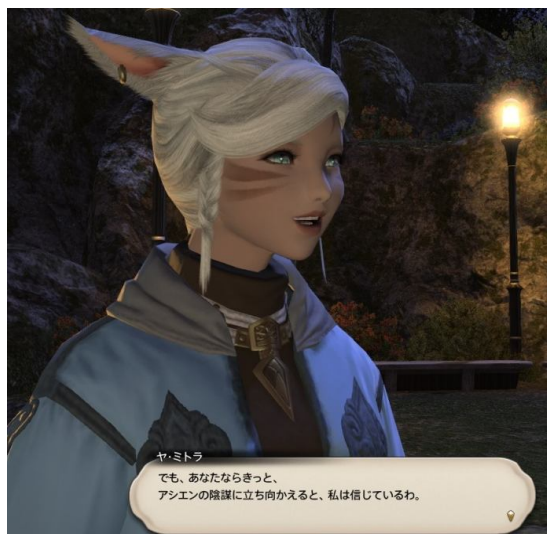
ヤ・ミトラ : やはり、あの情報は本当だったのね。
あなたは、ともにイフリート討伐に参加し、テンバードにされてしまった実の兄を、その手で……！

トリスタン : テンバードになった者を、もとに戻すすべはない……。他人に殺されるくらいならと、ひと思いに俺が殺った……。
兄殺しの大罪を背負ったからには、どんなことでもできる！ どんな罪をも恐れず犯し、力を身につけて……
蛮神を駆逐すると心に誓ったッ……！
お前を殺して……！ そのソウルクリスタルで、さらなる力をッ……！



ヤ・ミトラ : ……後味が悪い戦いだったわね。彼の目的が、私たちと同じものだったなんて。
蛮神の力をもって、蛮神を制する…… それはまさしく、古代アラグ帝国の召喚士の使命そのもの。
トリスタンもまた、その意味では正しく召喚士だったのよ。
だけど、そのために手段を選ばないという過ちを犯した。彼は他人を傷つけてまで、願いを叶えようとした。
他人を踏みこじめるような願いが、報われることはないわ。だから、彼は憎んでいたはずの蛮神の力に溺れた。
そして……破滅した。
……◇◇◇、あなたはそうならないで。蛮神の力に溺れることなく、正しくその力を使って。
あなたには、それができると信じている。
……「アブカル滝」に戻りましょう。もう「黒い召喚士」が現れることはないわ。トリスタンは……いないのだから。

ヤ・ミトラ : これですべて終わった、そう言いたいところだけど……。トリスタンと一緒にいた、アシエンの行方はわからずじまい。
アシエンは、人の心の隙間に入りこんで…… 甘い言葉でそそのかし、破滅への道を歩ませようとする。
そうやって、エオルゼアを混乱に導いているのよ。
でも、あなたならきっと、アシエンの陰謀に立ち向かえると、私は信じているわ。
いつか来るであろう、アシエンとの戦いのために、この最後の装束を受けとってくれる？
トリスタンが奪ったソウルクリスタルと一緒に、遺跡から発見されたものだよ。
財団のみんなが、仇を討ってくれたあなたにとって……。
……アシエンに立ち向かうためには、「力」はいくらあっても余るということはないわ。有効に活用してね。
そうだ、力といえば…… ◇◇◇、あなた気づいてる？ 召喚獣には、さらなる力が秘められているということ。
召喚獣の秘められた力を解放する術があるわ。かつて、トリスタンが使っていたのを見たはずよ。
トリスタンとの最後の戦いのさなか、ソウルクリスタルからの囁きを聞いたのでしょう？
今ならきっと、あなたも引き出せるはず。召喚獣の真なる力を……！



登場人物

ヤ・ミトラ：聖コイナク財団研究者



トリスタン：元不滅隊の召喚士



十二杯のアシエン



ラムブルース：聖コイナク財団一員



トゥビルゲイム：巴術士ギルドマスター代理



元不滅隊の男



コイナク財団 調査員の方々

